

## 谷口 功 <略歴>

1947年10月奈良県生まれ。1970年東京工業大学理工学部卒業。1975年同理工学研究科化学工学専攻博士課程修了（工学博士）。1977年熊本大学工学部赴任。助手、講師、助教授を経て1990年教授。2002年11月より工学部長（3期）を経て2009年4月より熊本大学長。

この間、1982~1983年テキサス A&M 大学博士研究員、1997年大阪大学タンパク研教授（併任）、2000-2001年分子科学研究所教授（併任）。

（国内学会）1993-2004年日本化学会速報誌・欧文誌編集委員、2006-2008年同会理事、2004年九州支部長 2008年から、Chemical Record 編集委員、2000-2001年日本分析化学会理事・副会長、2003-2005年電気化学会理事・副会長、2000-02年同・化学センサ研究会会長、2003年同・九州支部・支部長、2006-2007年日本ポーラログラフ学会会長 等を歴任。

（国際学会）1997-1999年国際電気化学会・生物電気化学部会長、2003-2008年同学会・日本代表、2005-06年米国電気化学会・有機生物電気化学部会・副部会長、2007-08年同・部会長、2013年~同学会・新技術委員会委員、2014年~研究普及委員会などを歴任。

他に、2006年から日本学術会議連携会員（第21期、22期）、2011年より文部科学省中央教育審議会大学分科会臨時委員、同大学教育部会副部会長、2011年から国立大学協会理事（教育・研究担当：研究小委員会委員長、男女共同参画委員会委員長（2011.6-）、2013年から同理事・副会長、2012年大学コンソーシアム熊本会長、2014年から全国大学コンソーシアム協議会代表幹事など。

### （熊本県関係）

熊本県ソーラー関連産業推進協議会 会長（2006-）

熊本県セミコンフォレスト協議会 会長（2009-）

熊本県新産業ビジョン2011策定委員会 委員長（2010-）

熊本県立第二高等学校 SSH運営委員長（2005-）/宇土高校 SSH運営委員（2013-）、

くまもと有機薄膜技術高度化支援センター（Phoenixes）センター長（2011-）他 多数

（受賞）1995年日本化学会学術賞、2005年電気化学会論文賞、2013年同学会功績賞、2009年日本錯体化学会賞、2011年日本ポーラログラフ学会志方国際メダル授賞。2014年第五回化学遺産認定（第25号：旧第五高等学校・化学実験場：熊本大学。2006年 **ITE-Yeager-Kozawa Award**。他に、

中国 山東大学 名誉客員教授（2008）/中国 上海師範大学 08 International Scholar's Forum Award（2008）/韓国 Ajou Univ. World's Eminent Scientists and Engineers Award（2009）/中国・重慶市科学技術院・顧問（2013-）など

専門は電気化学、特に、生物電気化学。

趣味は旅行。

以上

## (参考)

### 国際会議オーガナイザー:

Redox Mechanisms and Interfacial Properties of Molecules of Biological Importance (1993);

Electron Transfer Reactions in Bioinorganic Molecules (1995);

Biological Electron Transfer Systems and Their Use in Molecular Sensing (1998)

The 4th Japan-Korea Joint Seminar on Electrochemistry (1999)

The 10th International Conference on Chemical Sensors (2003)  
(Vice Chair)

他に20余件の国際会議組織委員

The 14<sup>th</sup> International Conference on Bioinorganic Chemistry (第14回国際生物無機化学会議: 14<sup>th</sup> ICBIC-2009) Vice-Chair (副委員長) (2009)

The Asian Conference on Electrochemistry (アジア電気化学会議: ACEC) 実行委員長 (2010)

など、

### 国内会議: 実行委員長

第10回酸化反応討論会 (1992)、

第15回エレクトロオーガニックケミストリー討論会 (1993)、

第39回ポーラログラフイー及び電気分析化学討論会 (1993)、

日本分析化学会第50年会 (2001)

電気化学会第58回大会 (2005)

錯体化学会 第57回大会副実行委員長 (2007) など 多数

### 研究分野

電気化学、生物電気化学、界面電気化学、触媒電気化学、計測化学 など

(参考: 私の自慢 生物電気化学の基礎から応用の展開: 黎明期から発展を支えた機能電極の開発とともに: 化学と工業, 66号9月号)

原著論文: 約 220余編

### 著書

Electrochemistry of Heme Proteins, in "The Porphyrin Handbook", K. M. Kadish 他 編、Vol. 8 (Electron Transfer), Academic Press, New York, pp.191-202 (2000年1月発行).

生物電気化学: 生体内の電気化学反応, 電気化学便覧、電気化学会編、丸善、東京、pp.323-330 (2000年月6月) など 20数編

国際会議プロシーディングス30余件、総説その他 70余件、

国際会議など招待講演 100余件など

特許等 20数編

など